

高校生のための
九州大学
医学部 医学科紹介
2021



「医師・医学研究者を目指す皆さんへ」

九州大学医学部医学科長

北 園 孝 成



九州大学病院キャンパス（別名、馬出キャンパス：「まいだし」と読みます）へ、ようこそ。

九州大学医学部医学科は、1903年（明治36年）この地馬出に京都帝国大学福岡医科大学として開設され、1911年（明治44年）には九州帝国大学医科大学となり、その後いくつかの名称変更を経て、今に至っています。

九州大学医学部医学科は、医学を学び、「未来の医学・医療を担うプロフェッショナル」とくに「世界中の先達によって培われてきた医学・医療を単に消化吸収するだけでなく、将来はそれぞれの領域で新たな一歩を切り開くことができる医学研究者・医師」を育てるための場です。

医学の対象は「人間」です。すなわち、医学を学ぶことは、人間である自分自身の体の仕組みを学び、人間である自分自身の心の仕組みを学ぶことでもあります。また、医学を学ぶことは、社会と繋がることでもあります。今年流行している新型コロナウイルス感染症は私たちの生活に大きな影響をもたらしました。このように、健康と病気は社会全体にとって大きな問題であり、医学を学ぶことによって社会に貢献することが求められます。医学で学ばなければならない量は膨大で時に厳しいものですが、自分自身や社会を知ることと直結していることから想像がつくように、「医学を学ぶこと」はとてもエキサイティングで楽しい営みでもあります。

九州大学医学部医学科の学生は、最初の1年間を伊都キャンパスで学んだ後、場所を病院キャンパスに移して本格的な医学の勉強を開始します。病院キャンパスでは、5年をかけて「未来の医学・医療を担うプロフェッショナル」となるための基本を身に付けることになります。医学科2年生から3年生にかけては基礎医学系の学問（解剖学、生理学、生化学、発生学、病理学、薬理学、遺伝学、放射線基礎医学、細菌学、ウイルス学、免疫学、臨床検査医学、幹細胞学、等々）を、3年生から4年生にかけては臨床医学系の学問（内科、産科婦人科、小児科、外科、皮膚科、泌尿器科、精神科神経科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、等々）や社会医学（法医学、衛生・公衆衛生学）を学びます。そして、5年生および6年生では、同じ敷地内にある九州大学病院において、臨床の実際を学ぶとともに社会医学（衛生・公衆衛生学）を学びます。医学科

卒業の少し前には医師国家試験があります。これに合格すると医師免許証が与えられ、卒業後は医師となるべく研修医として研鑽を積むことになります。

医学研究者への道には主として3つがあります。1つ目の道では、医学科を卒業し医師国家試験を受けた後に、研修医を経ないで、大学院博士課程（九州大学大学院医学系学府）に進学します。そこで4年間研究に専念し、その成果をまとめた博士論文を提出して医学博士を取得します（早期修了制度により3年間で医学博士を取得することも可能です）。このように医学科を卒業して直ちに大学院に進む人のためには、充実した奨学金制度があります。2つ目の医学研究者への道として、九州大学医学部医学科にはMD-PhDコースが設けられています。MD-PhD コースでは、医学科4年生を修了した時点で大学院博士課程（九州大学大学院医学系学府）に入学します。そこで4年間（あるいは3年間）研究を行い、その成果をまとめた博士論文を提出して医学博士を取得します。大学院修了（医学博士取得）後に医学科5年生に戻り、通常のコースと同様に臨床の実際を勉強します。このように、MD-PhD コースでは、医学科を卒業して医師免許証を取得するよりも前に医学博士になりますが、ここでも研究に専念できるように充実した奨学金制度を準備しています。3つ目の道、実はこれが最も多くの人がとる医学研究者への道ですが、医学科卒業後に研修医そして専攻医として3～5年ほど臨床修練を行った後に、大学院博士課程（九州大学大学院医学系学府）に入学し研究を開始するというものです。この時、臨床医学者を志す人が多いのですが、基礎医学者を志す人もいます。

医学部医学科の学生さらには医学系学府の大学院生には、それぞれの時期に応じて、時には助けてくれ、時には一緒に歩む先生となる教員の存在が必要です。九州大学医学部はそのための努力を惜しまない教員であふれています。また、世界レベルの研究を行うとともに、楽しく学問を語ってくれる教員であふれています。

皆さんの九州大学への参加、まずは医学部医学科学生としての参加を、心待ちにしています。

沿革／History —おもな年表—

明治36年 4月 1日	京都帝国大学福岡医科大学開設 解剖学、内科学、外科学、眼科学各1講座開設
〃 36年 9月11日	生理学、医化学各1講座開設
〃 36年 9月14日	第1回入学宣誓式挙行
〃 36年 9月22日	第1回教授会開催
〃 37年 5月20日	解剖学、外科学を2講座に増設、病理学、小児科学、衛生学各1講座を開設
〃 38年 3月22日	内科学を2講座に増設、薬物学、婦人科学産科学各1講座開設
〃 38年11月13日	第1回解剖体祭を万行寺にて執行
〃 39年 4月23日	皮膚病学黴毒学、法医学、精神病学、耳鼻咽喉科学各1講座開設
〃 40年 5月 9日	病理学が2講座となる
〃 40年12月12日	第1回卒業証書授与式挙行
〃 41年 5月 1日	解剖学が3講座となる
〃 42年 5月24日	内科学が3講座となり整形外科学講座開設
〃 44年 4月 1日	京都帝国大学福岡医科大学が九州帝国大学医科大学となる
〃 45年 5月29日	衛生学が2講座となる
大正 7年 6月18日	生理学が2講座となる
〃 8年 4月 1日	九州帝国大学医科大学は九州帝国大学医学部となる
〃 11年 5月29日	歯科学講座開設
〃 12年 1月19日	衛生学2講座は衛生学講座と細菌学講座とに分立
〃 13年 7月 7日	皮膚病学黴毒学講座は皮膚科学泌尿器科学講座の2講座となる
昭和 2年10月 7日	歯科学は歯科学口腔外科学講座となる
〃 3年10月24日	創立25周年記念祝典挙行
〃 4年12月17日	放射線治療学講座開設
〃 11年 3月27日	薬物学講座は薬理学講座と改称、皮膚科学泌尿器科学講座は皮膚科学講座と泌尿器科学講座に分立
〃 14年 5月13日	臨時附属医学専門部設置
〃 15年12月10日	民族衛生学・植民衛生学講座開設
〃 17年 9月23日	臨時附属医学専門部第1回卒業式挙行
〃 19年 3月31日	臨時附属医学専門部は附属医学専門部と改称
〃 19年 5月10日	熱帯伝染病研究所設立
〃 20年 4月 1日	環境医学研究所設立
〃 21年 2月14日	熱帯伝染病研究所を風土病研究所と改称
〃 21年 3月 1日	民族衛生学・植民衛生学講座は民族衛生学講座と改称
〃 22年10月 1日	九州帝国大学医学部は九州大学医学部となる
〃 24年12月 1日	放射線治療学講座を放射線医学講座と改称
〃 25年 4月 1日	薬学科設置3講座が開設
〃 26年 4月 1日	衛生学講座と民族衛生学講座は衛生学第1講座、衛生学第2講座となる 寄生虫学講座開設、薬学科が5講座となる
〃 27年 4月 1日	結核研究施設、助産婦学校、看護学校設置、薬学科が7講座となる、附属医学専門部廃止
〃 28年 4月 1日	精神病学講座は神経精神医学講座と改称
〃 28年 5月 3日	医学部創立50周年記念式典挙行
〃 29年 4月 1日	診療工ワックス線技師学校設置
〃 29年 9月 9日	衛生学第1講座は衛生学講座に衛生学第2講座は公衆衛生学講座と改称
〃 30年 4月 1日	九州大学大学院医学研究科設置
〃 30年10月31日	癌研究室開設
〃 31年 7月16日	九州大学附属図書館に医学部分館設置
〃 32年 4月 1日	がん研究施設設置、化学部門開設
〃 33年 4月 1日	心臓血管研究施設設置、内科部門開設
〃 35年 4月 1日	結核研究施設は胸部疾患研究施設にがん研究施設が癌研究施設と改称、衛生検査技師学校設置
〃 36年 4月 1日	精神身体医学研究施設設置、癌研究施設に病理部門開設
〃 37年 4月 1日	麻酔学講座開設
〃 38年 4月 1日	精神身体医学研究施設廃止、精神身体医学講座、放射線基礎医学講座開設、放射線医学講座は放射線科学講座と改称、脳神経病研究施設設置、内科部門開設
〃 39年 4月 1日	薬学科を薬学部薬学科に振替

昭和41年 4月 1日	医化学講座は生化学第1講座となり、第2講座開設、脳神経病研究施設に外科部門開設
〃 42年 4月 1日	癌研究施設に細胞部門開設
〃 42年 6月 1日	歯科学口腔外科学講座は口腔外科学として歯学部へ振替
〃 47年 3月31日	衛生検査技師学校廃止
〃 48年 3月31日	看護学校及び診療放射線技師学校廃止
〃 48年 4月12日	ウイルス学講座開設、心臓血管研究施設に外科部門開設、動物実験施設設置
〃 48年11月24日	創立70周年記念式典挙行
〃 49年 4月11日	脳神経病研究施設に病理部門開設
〃 51年 4月 1日	癌研究施設に免疫部門開設
〃 52年 4月18日	臨床薬理学講座開設
〃 53年 3月31日	助産婦学校廃止
〃 53年11月25日	創立75周年記念式典挙行
〃 54年 4月 1日	小児外科学講座開設
〃 56年 4月 1日	遺伝情報実験施設設置
〃 57年 4月 1日	脳神経病研究施設に生理部門開設
〃 57年 4月 1日	癌研究施設は生体防御医学研究所に改組のため廃止
〃 58年11月 5日	創立80周年記念式典挙行
〃 60年 4月 1日	遺伝情報実験施設は学内共同利用施設となる
〃 61年 4月 1日	医学研究科を医学系研究科に拡充改組、分子医学系専攻博士課程及び分子生命科学系専攻博士課程（後期3年の課程のみの博士課程）増設
〃 62年 5月21日	心臓血管研究施設に臨床細胞科学部門開設
〃 63年 4月 8日	統合教育研究実習センター設置
平成元年 5月29日	麻醉学講座は麻醉・蘇生学講座と改称
〃 元年 5月29日	脳神経病研究施設の生理部門を廃止し、同施設に臨床神経生理部門開設
〃 6年 4月 1日	臨床検査医学講座開設
〃 7年 5月29日	医学系研究科社会医学系専攻医療システム学講座開設
〃 9年 4月 1日	心臓血管研究施設の臨床細胞科学部門を廃止し、同施設に分子細胞情報学部門開設 医学系研究科の再編成により、機能制御医学専攻・生殖発達医学専攻開設 （大学院整備（重点化）3か年計画の初年次）
〃 10年 4月 8日	医学系研究科の再編成により、病態医学専攻・臓器機能医学専攻開設 （大学院整備（重点化）3か年計画の2年次）
〃 11年 4月 1日	医学系研究科の再編により、分子常態医学専攻・環境社会医学専攻開設 （大学院整備（重点化）3か年計画完了）
〃 12年 4月 1日	胸部疾患研究施設・心臓血管研究施設・脳神経病研究施設は、医学系研究科の附属研究施設となる 医学系研究科を廃止し、医学系学府（大学院教育組織）及び医学研究院（大学院研究組織）を設置 胸部疾患研究施設・心臓血管研究施設・脳神経病研究施設・動物実験施設は、医学研究院の附属研究施設となる
〃 13年 4月 1日	大学院医学研究院環境社会医学部門に医療経営・管理学講座が設置され、大学院医学系学府に医療経営・管理学専攻修士課程（専門大学院）が設置された
〃 14年10月 1日	医学部に保健学科が設置され、医療技術短期大学部は、同部学生が在学する間存続することとなった
〃 15年 3月 8日	創立100周年記念式典挙行
〃 15年 4月 1日	医学研究院の8部門を基礎医学部門、先端医療医学部門、臨床医学部門、分子生命科学系部門及び医学教育学部門の5部門に、23講座を11講座に再編 大学院医学系学府に医科学専攻（修士課程）が設置された 医学研究院附属統合教育研究実習センターを廃止し、全学共同教育研究施設として医療系統合教育研究センターを設置 大学院システム生命科学府の設置に伴い、大学院医学系学府分子生命科学系専攻は、同専攻学生が在学する間存続することとなった 学校教育法の改正により、大学院医学系学府医療経営・管理学専攻修士課程（専門大学院）は、同（専門職大学院）となる
〃 16年 4月 1日	九州大学は国立大学法人九州大学が設置する大学となった
〃 19年 4月 1日	医学部に生命科学科を設置 大学院医学系学府に保健学専攻（修士課程）を設置
〃 20年 4月 1日	大学院医学系学府博士課程を1専攻に再編
〃 21年 4月 1日	大学院医学系学府に保健学専攻（博士後期課程）を設置
〃 23年 4月 1日	九州大学病院は医学部及び歯学部の附属施設となる
〃 24年 4月 1日	医学研究院に応用幹細胞医科学部門設置 同部門に応用幹細胞医科学講座設置

医学部医学科案内

医学部医学科アドミッションポリシー

求める学生像

医学科では以下の学生を求める。

医師の仕事は、非常に幅広く、基礎の研究者から臨床医まで選択肢も多い中で、最も大切なことは弱い立場の患者さんの味方となり、病気に苦しんでいる患者さんを助けることである。単に受験学力が高いから医学部に入学するのではなく、医師としてあるいは医科学分野の研究者として活躍するに十分な能力と素質をもち、明確な目的意識をもった学生を望んでいる。

人間で最も大切なことは、「生きがいを持ち人間らしく生きること」である。命に直接関係するような病気を持っている患者さんは、ややもすると、この「生きがい」をなくし、生きる喜び、生きる目標を失っている。このような人達に優しい救いの手をさしのべることができる人間味あふれる学生を求めている。

求める学生像と学力3要素との関係

①知識・技能：

高等学校などにおける基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能。加えて、医学・医療における知識・技能の習得ができる基礎的な能力。

②思考力・判断力・表現力などの能力：

多面的に考え、客観的に批判し、自分の言葉で人に伝える資質。医学知識を習得し、臨床に応用するために努力を惜しまない姿勢。

③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度：

医師としてあるいは医科学分野の研究者として活躍することへの強い関心、多様性を尊重する態度、異なる考えに共感する姿勢。多職種と協働して医療を提供しようという意欲。患者・家族から求められている医療を真摯に提供しようとする意欲。新しい医学を創造・発展しようとする意欲。

入学者選抜方法

	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力などの能力	③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜 (前期)	大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査 個別面接	調査書 志望理由書 個別面接

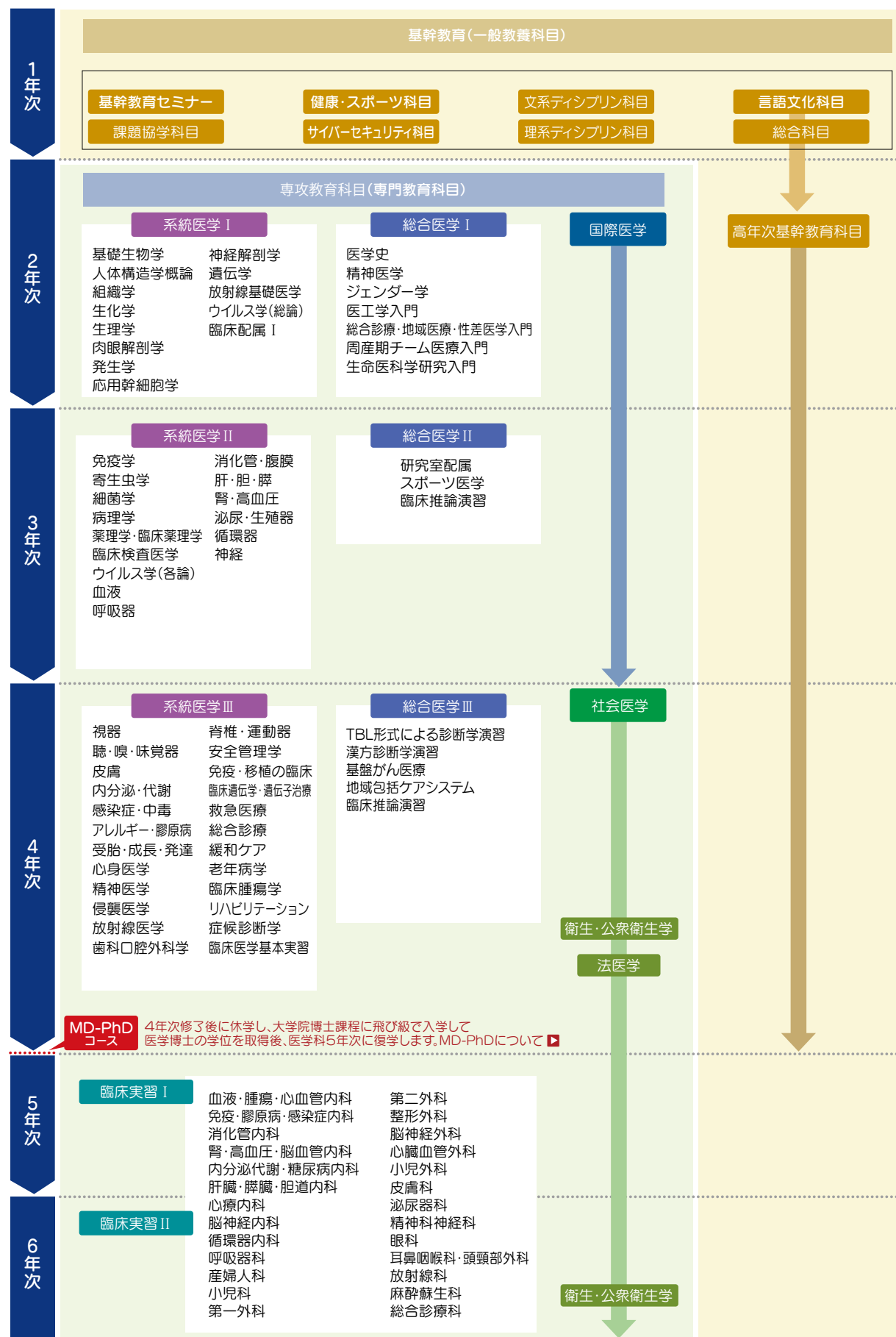
教育理念 (教育理念・目標、育成する人材像等)

医学部医学科は、医学に関する知識・技術の教育を基盤にし、医の倫理に徹し、旺盛な探求心を有する医師および医科学研究者を育成することを目的としています。創始以来約100年の伝統に培われた医学科の教育・研究の成果として、世界の医学界に誇る数多くの研究業績があります。またその名声により遠近を問わず広く一般患者に利用されている大学病院は、より高度な医療と社会福祉の実現に向かって全力をはらっています。医師・医学者には自然科学者としての適性が求められる一方、病気と闘う患者に寄り添うよき援助者であることも求められます。さらに医師の判断は患者の人生に大きな影響を与える可能性があります。医学部医学科での教育・研究は、専門性の修得ばかりではなく、広く深く人間についての洞察を重ねることへとつながるものです。

「人の健康と福祉の増進」という医学の使命を達成するための多様な人材を育成することが目的です。



カリキュラム



※ユニット名は変更になることがあります。

カリキュラム概要

系統医学Ⅰ～Ⅲ

医学・医療の長い歴史で培われた、多くの場面で必要となる最新の知識や技能、態度を学びます。必修制を採用しています。



生化学実習

総合医学Ⅰ～Ⅲ

地域社会や国際社会、あるいは医学教育の変化に伴い、ある場面で特に必要となる知識や技能、態度を学びます。主に選択必修制を採用しています。



患者さんの接し方

臨床実習Ⅰ・Ⅱ

それまでに学んだ知識、技能、態度を活かして、大学病院あるいは地域や海外の医療機関で、本物の患者さんや医療スタッフとのやり取りをととして、医師としてのプロフェッショナリズムを実践的に学びます。



臨床実習

社会医学

医学・医療における倫理学や法学をはじめとする人文社会科学系の側面、さらに統計学や情報学などの理学・工学系の側面を学びます。

国際医学

医学・医療の現場に必要な英語の学習を基盤とし、将来、外国人患者の診療や海外で臨床・医学研究に携わる動機づけのために、海外における医学・医療や国際NGOの活動などについて学びます。



MD-PhDコース

早期に本格的な基礎医学研究を始めたい学生は、4年生修了時に休学し、医学系学府医学専攻博士課程に『飛び級』できます。博士号を取得した後に医学科5年生に復学します。

学 生 / Students

(1) 学生定員及び在籍学生数 Enrollment Limit and Present Number

医 学 部

School of Medicine

(令和3年5月1日現在)

As of May 1st, 2021

	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	3年 3rd year	4年 4th year	5年 5th year	6年 6th year	合計 Total
医 学 科 Department of Medicine	定 員 Enrollment Limit	110	110	111	111	111	111	664
	在籍学生数 Present Number	124 (27)	123 (21)	109 (23)	124 (28)	114 (14)	113 (18)	707 (131)
生命科学科 Department of Biomedical Science	定 員 Enrollment Limit	12	12	12	12			48
	在籍学生数 Present Number	16 (6)	17 (8)	12 (8)	12 (9)			57 (31)
保健学科 Department of Health Sciences	定 員 Enrollment Limit	134	134	134	137			539
	在籍学生数 Present Number	141 (114)	134 (110)	141 (116)	141 (101)			557 (441)
合 計 Total	定 員 Enrollment Limit	256	256	257	260	111	111	1,251
	在籍学生数 Present Number	281	274	262	277	114	113	1,321

Figures in parentheses indicate the number of female students.

* ()内は女子で内数を示す。

大学院(修士課程)

Graduate School(Master's Course)

(令和3年5月1日現在)

As of May 1st, 2021

専 攻 名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	合計 Total
医科学専攻 Master Course in Graduate School of Medical Sciences	定 員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	10	14	24
保健学専攻 Master Course in Graduate School of Medical Sciences, Department of Health Sciences	定 員 Enrollment Limit	27	27	54
	在籍学生数 Present Number	34	38	72
合 計 Total	定 員 Enrollment Limit	47	47	94
	在籍学生数 Present Number	44	52	96

大学院(専門職学位課程)

Graduate School(Master's Course)

(令和3年5月1日現在)

As of May 1st, 2021

専 攻 名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	合計 Total
医療経営・管理学専攻 Health Care Administration and Management	定 員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	18	22	40
合 計 Total	定 員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	18	22	40

大学院(博士課程)

Graduate School(Doctor's Course)

(令和3年5月1日現在)

As of May 1st, 2021

専攻名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	3年 3rd year	4年 4th year	合計 Total
医学専攻 Department of Medical Sciences	定員 Enrollment Limit	107	107	107	107	428
	在籍学生数 Present Number	110	108	123	210	551
保健学専攻 Doctor Course in Graduate School of Health Sciences	定員 Enrollment Limit	10	10	10	—	30
	在籍学生数 Present Number	5	5	25	—	35
合 計 Total	定員 Enrollment Limit	117	117	117	107	458
	在籍学生数 Present Number	115	113	148	210	586

* 平成20年4月より1専攻化 * 保健学専攻は博士後期課程

(2) 学部卒業生数 Number of Graduates

(令和3年5月1日現在)

As of May 1st, 2021

		平成 30年度 2018	令和 元年度 2019	令和 2年度 2020	平成3年7月1日 以降の卒業者数 (累計) Total (1991.7.1～2021.3.31)
医 学 科 Department of Medicine		123	112	105	3,129
生 命 科 学 科 Department of Biomedical Science		8	9	16	136
保健学科 Department of Health Sciences	看護学専攻 Nursing Course	69	70	69	1,056
	放射線技術科学専攻 Radiological Sciences Course	39	24	44	519
	検査技術科学専攻 Medical Technology Course	35	33	33	527
	小計 Total	143	127	146	2,102
計 Total		274	248	267	5,367

* 医学部保健学科は、平成14年10月に九州大学医療技術短期大学部を改組して設置。第1回卒業生は平成19年3月。

Department of Health Sciences was founded in Oct. 2002. The first graduating class was in March, 2007

医学部(医学士)卒業生

学部(旧制)累計 ————— 4,766名
School of Medicine(Old system)

学部(新制 昭和24年以降入学~平成3年6月30日卒業)累計 3,858名
School of Medicine(New system 1949~1991.6.30)

医学専門部累計 ————— 838名
Medical College

(3) 大学院学位授与者数 Doctorate Conferred

区 分 Classification			平成 29年度 2017	平成 30年度 2018	令和 元年度 2019	令和 2年度 2020	平成3年7月1日 以降の学位授与者数 (累計) Total (1991.7.1～2021.3.31)
博士課程 Doctor Course	課程博士 Degrees Awarded	博士(医学) Doctor of Philosophy (Medical Science)	101	106	92	110	2,400
		博士(理学) Doctor of Science	0	0	0	0	82
	論文博士 Theses Accepted	博士(医学) Doctor of Philosophy (Medical Science)	13	12	23	8	1,216
		博士(理学) Doctor of Science	0	0	0	0	8
修士課程 Master Course		修士(医科学) Master of Medical Sciences	13	24	13	18	314
		修士(医療経営・管理学) Master of Public Health					38
専門職学位課程 Master Course		医療経営・管理学修士(専門職) Master of Health Administration	18	15	19	18	320

博士学位授与者数 旧制学位(福岡医科大学、九州帝国大学、九州大学)累計 ————— 5,310名
 Doctorate Conferred Old system

新制学位 課程博士(昭和24年以降入学～平成3年6月30日授与)累計 医学博士 891名
 New system Degrees Awarded(1949~1991.6.30) 理学博士 16名

論文博士(昭和28年～平成3年6月30日授与)累計 ——— 医学博士 1,549名
 Theses Accepted(1953~1991.6.30)

令和4年度入学者選抜の基本方針(入学要件、選抜方式、配点等)

入学定員:105名 一般入試(前期日程105名) (注1)

(1) 大学入学共通テスト及び個別学力検査等の配点

前期日程

	国 語	地理・歴史	公民	数 学	理 科	外国語	面 接	計
大学入学共通テスト	100	50		100	100	100	—	450
個別学力検査	—	—		250	250	200	(注2)	700
計	100	50		350	350	300	—	1,150

(2) 個別学力検査実施教科・科目等

前期日程

	数 学	理 科	外国語	面 接
科 目	数 学 I 数 学 II 数 学 III 数 学 A 数 学 B 5科目	物 理 基 礎 ・ 物 理 化 学 基 礎 ・ 化 学 2科目	英 語 コミュニケーション英語Ⅰ コミュニケーション英語Ⅱ コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 1科目選択	面 接
配 点	250(150分)	250(150分)	200(120分)	(注2)

(注1) 医学部医学科の入学定員数は、令和3年度入学までの臨時定員増分(5名)を除いています。現在、5名の増員申請をしているため、入学定員数は変更になる場合があります。

(注2) 総合判定の判断資料とします。

国際交流

九州大学医学部では、国際交流も盛んに行われています。

釜山大学校医科大学、仁済大学、慶尚大学とは、学生交流を行っています。

ドイツのグーテンベルク大学や、アメリカのクリーブランドクリニックで臨床実習（クリニカルクラークシップ）を受けることもできます。

また、公益財団法人医学教育振興財団が実施する、イギリスの大学医学部での臨床実習のための短期留学もあります。

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、海外派遣は全て中止となりました。

クリーブランドクリニックでの実習を終えて(成果報告書) 2020年3月卒業 縄田 英吾

私はこの度、九州大学第二外科のご厚意にて5月13日からの3週間、アメリカ、オハイオ州のクリーブランドクリニックにて実習させて頂きました。実習ではレジデントとの朝回診、手術見学、外来見学、臓器摘出同行、Grand Rounds(リサーチカンファレンス)をさせて頂きました。

現地で臨床医として働いている日本人の先生方から日本とアメリカとの医療制度の違いやアメリカでの生活、これからのキャリアについてなど貴重なお話を伺うことができました。アメリカではチーム医療と多職種連携が徹底されていて、それぞれの職種及び診療科の職務内容に集中できる環境が整っていました。例えば、日本における外科医は手術、外来に加え、適切な抗菌薬の選択や化学療法、術後の合併症対策も行わなければならないのに対し、アメリカでは外科医が手術及びその前後の管理を集中して行い、その他の部分に関しては感染症内科医、腫瘍内科医、薬剤師などが役割を分担して対応していました。回診では医師以外の職種の人々も参加していて驚きでした。

同じ時期にクリニックで実習していた海外の学生とも交流することができ、彼らの医学知識や英語力には驚きました。アメリカやほかの海外の大学では学生の期間の最後の約二年間で、実際の患者さんを診察しカルテを書いて診療業務を医師と同じようにこなしており、彼らとの医学知識や臨床能力の差に悔しい思いをしました。また、クリーブランドクリニックには世界中から医師や学生が集まってきており、母国語、英語に加えてさらにもう数言語話することができる人も多くいて、最低限英語が喋れることが世界ではスタンダードなのだと痛感しました。

日本ではなかなか経験することのできない脳死ドナーの臓器摘出同行も経験しました。アメリカでは脳死の原因として銃に関連するものも多く、今回経験した症例もガンショットでの自殺で、ドナーから次々と臓器が摘出されていく様子は衝撃的でした。また、生体肝移植のドナーは日本では多くが家族ですが、アメリカでは教会が同じ人や見ず知らずの人がドナーとして臓器提供をしていてそこでも日本との違いを感じました。

三週間で過ごす中で文化の違いにも多く触れることができました。しっかりと自己主張を行い、できることはできると自信を持って言うことがアメリカという社会のみならず、競争的な社会で生き残るためには不可欠だと感じました。また、「シニアはジュニアに教えるのが義務で、ジュニアもそれを当然期待している」、という文化が根付いており、とても印象的でした。

今回、このような貴重な体験をさせて頂き、自分の中の価値観や人生観が変わった部分が多くありました。また、これから医師として成長していく中で周りの人に何か還元できるような人になれるよう努力したい、と強く感じました。



仁済大学校医科大学での実習を終えて 2020年3月卒業 植木 優果

クリニカルクラークシップ第一期(4/8~5/10)に韓国の仁済大学海雲台白病院にて臨床実習をさせて頂きました。消化器内科、形成外科、小児科にて実習を行いました。以下、簡単にご報告いたします。

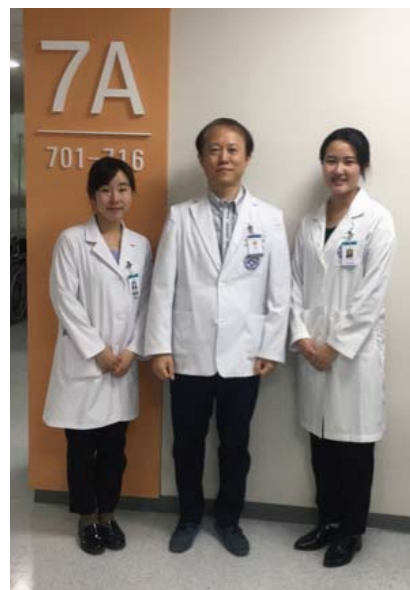
病院での実習

消化器内科ではほとんどの時間を内視鏡室で過ごしました。先生方が解剖や所見を解説して下さったり、実際に内視鏡を持たせていただいたりと、有意義な時間を過ごすことができました。教科書でしか見たことのなかった症例や多くの内視鏡的治療を見学できたことも良い経験でした。

形成外科では主に手術見学を行いました。日本での実習で見ることのないコスメティックな手術を見学してみたいと考えていましたが、残念ながら私の回った一週間ではそのような症例はありませんでした。ほとんどは市中病院で行われるため、大学病院では普段見られない、とのことでしたが、タイミングが合えば見学できるそうです。

小児科では朝夕の回診、PBL、講義、外来と幅広く参加させて頂きました。韓国の学生と一緒に新生児の診察やPBLを行う中で、英語力不足、医学知識不足を痛感させられ、今後のモチベーションにつながる二週間となりました。

韓国の学生は毎週の症例発表に加え、毎日のように課題が与えられており、かなり忙しいように実習生活を送っていました。大変だとは言っていましたが、学生同士切磋琢磨しながら積極的に、そしてどこか学ぶ事自体を楽しんでいるかのように実習を行っている様子は印象的でした。



現地での交流

忙しい中でも学生や先生が食事に誘ってくださったり、観光名所に連れて行ってくださったりと、大変親切にして頂きました。近くの美味しいお店や食べるべき韓国料理を紹介してもらい、グルメな1ヶ月を過ごすことができたのも彼らのおかげです。コミュニケーションに一抹の不安はあったのですが、学生も先生がたも英語で丁寧に話してくださり、普段の生活は問題なく過ごすことができました。また、全く言葉が通じなくてもお互いに伝えよう、楽しもうとする意思さえあれば、心通う瞬間が来るということも身をもって経験し、人との関わりで大切なことは言語ではなく気持ちであるという原点を思い出させられました。

普段のニュースでなされる報道とは違った学生の目線で韓国の医学部事情や医療問題、受験戦争、徴兵制といった興味深い話を聞くことができたのも、現地で行う実習ならではの経験だと思います。

最後に

日韓の医療や臨床実習における違いを見ることができたことに加え、異文化に触れ、毎日新たな気づきのある刺激的な日々を送ることができたこの5週間はかけがえのない時間でした。また海外に行く機会があればいつでも飛べるよう、英語も医学もより一層励みたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を設けて下さった康先生を始め、医学学生係の方々、温かく迎えて下さった仁済大学の先生方、関わって下さった皆様に深くお礼申し上げます。

課外活動

体育系、文化系ともに、医学部の多くの学生がサークル活動に参加しています。
サークルで友人関係を広げることで、学生生活をより充実したものにしています。

医学部学生サークル一覧

空手道部

漢方医学研究会

弓道部

軽音楽部

KLSA

剣道部

硬式テニス部

ゴルフ部

サッカー部

柔道部

準硬式野球部

水泳部

ソフトテニス部

卓球部

熱帯医学研究会

バスケットボール部

バドミントン部

バレーボール部

フットサル部

ラグビー部

陸上競技部

MIC

ウェイトトレーニング部

ハンドボール部

ダンス部



建物配置図 CAMPUS MAP



⑩ ナイチンゲール誓詞の碑



⑩ 郭沫若先生顕彰碑



⑪ ヒポクラテスの木



⑦ 釜掛の松



⑧ 長塚節逝去の地



⑨ 九大生協食堂



⑫ 医学図書館



⑬ 医学部正門



⑭ 医学部75周年記念庭園



⑮ 神の手



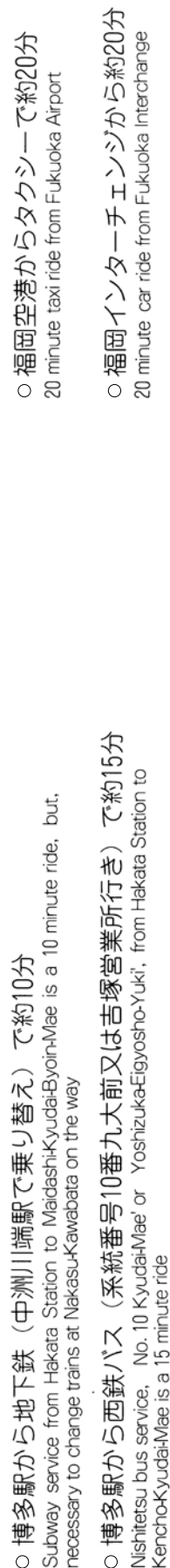
⑰ 百年講堂



⑯ 慰霊塔「崇高な精神」

医学部医学科、生命科学科

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号
3-1-1 Maidashi, Higashi-ku, Fukuoka City 812-8582
☎092-642-6020 FAX. 092-642-6189
<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/>





九州大学医学部医学科ホームページ
<http://www.mdc.med.kyushu-u.ac.jp/>



Kyushu University
School of Medicine
Department of Medicine